

令和元年度 地域医療構想調整会議在宅療養ワーキンググループについて

【今年度のワーキンググループの目的】

将来の訪問診療の需要増に対応していくためには、在宅療養に関するデータを共有するとともに、現場感覚での充足状況等も踏まえて、今後どのように取り組んでいくべきか検討することが必要。

今年度のWGでは、「在宅療養に関する地域の状況」をテーマに意見交換を行い、地域の現状を共有するとともに、将来増加する訪問診療の需要にどのように対応していくべきかを検討する。

※なお、今回の意見交換の内容については、今年度都が策定する「外来医療計画」に、「在宅医療」に関する地域の意見として記載される予定です。

1 今年度の意見交換内容（議題）

（1）「在宅療養に関する地域の状況」について意見交換

《意見交換のポイント》

（ア）地域における在宅療養に関する資源の状況

- ・ 訪問診療の患者流出入データ（資料5）や在宅療養に関するデータ（資料6）を参考にしながら、在宅療養の現場で日頃感じている訪問診療を中心とした在宅療養に関する資源の充足状況等について意見交換。【区市町村ごと】

（イ）今後地域で取り組むべきこと

- ・ （ア）で話し合った内容を踏まえ、将来、増加する訪問診療の需要に対応していくために、地域で取り組むべきことについて、意見交換。

（ウ）圏域全体での状況

- ・ 在宅療養に関する資源の状況について、圏域全体で見た際の特徴や課題等があれば、意見交換。

（2）東京都多職種連携ポータルサイトについて（情報提供）

- ・ 都が、今年度構築に向けて取り組んでいる「東京都多職種連携ポータルサイト」について紹介。

2 参加者

区市町村、地区医師会、在宅医、病院、病院協会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、介護支援専門員研究協議会、老人保健施設協会、保険者協議会

3 意見交換の方法

グループワーク形式にて意見交換を行う。

4 今回のワーキンググループの流れ

- ① 事務局から説明（20分）
- ② グループワーク形式により意見交換（40分）
- ③ 各グループ発表（15分）
- ④ 多職種連携ポータルサイト（仮称）について紹介（5分）